



◇創立記念日… 昭和32年(1957年)4月1日(創立69周年)

◇本校の位置…

北緯	24度24分33秒
東経	123度48分21秒
標高	31.7m

◇職員数…

男子	県8	町0
女子	県5	町2
合計	15	

◇生徒在籍数…

	中1	中2	中3	合計
男子	6	6	7	19
女子	6	7	9	22
計	12	13	16	41

【令和8年度】

◇特色ある取組… ① 炭焼き体験学習(41年目)



- ② 海洋教育(サンゴモニタリング)
③ 三大行事 ・R8 浦内川筏下り
・R9 マヤグスクの滝散策又は横断
・R10 テドウ登山

竹富町立 船浦中学校では

15の島立ち

に向けた教育を行います♪

竹富町立 船浦中学校では

午前5時間制

を導入しております♪

1 学校教育目標(=めざす生徒の姿)

「自ら考え、判断し、言動できる人」の育成 ～ 自分らしく あなたらしく ～

2 学校経営方針

- (1) 15の島立ちに向け、生徒・保護者・地域と対話を通して学習しやすい環境(スタディー・ライフ・バランス)を構築する。
- (2) 常に学校教育目標(最上位目標)を踏まえた各種教育活動を展開する。
- (3) 特色ある日課表を最大限に生かし、生徒会活動を機能させる。
- (4) 特別支援教育の視点を持ち、学校教育目標の具現化に向けた学習指導を展開する。
- (5) 生徒指導の4つのポイントを行動指標に、生徒のよさを伸ばす教育を実践する。
- (6) 生徒と教師が互いにエージェンシーを発揮し、ウェルビーングな魅力ある学校づくりを推進する。
- (7) 地域の人材や財産を活用し、本物に触れる、本物に出会う体験を充実させるために、地域と共にある教育課程を実施する。
- (8) 職員と対話を通して働きやすい職場環境(ワーク・ライフ・バランス)を構築する。
- (9) 危機管理の「さしすせそ」を日ごろから意識して言動する。
- (10) 5s(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の推進。

3 校訓(自主・親愛・努力) = 育成を目指す資質・能力

The OECD Learning Framework 2030



https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper_Japanese.pdf

- ◆「自主」→「責任ある行動をとる力(自律)」
- ◆「親愛」→「対立やジレンマに対処する力(対話)」
- ◆「努力」→「新たな価値を創造する力(創造)」

4 重点事項

「自ら考え、判断し、言動できる人」の実現に向け「生徒が言動し、大人が支援する」というスタンスで各種教育活動を展開する。

5 キーワード

- ウェルビーング(幸福) ○ エージェンシー(主体性) ○ アップデート(成長)

6 めざす授業の姿

- ◆「GIGAスクール構想 1人1台端末の日常的な活用(中学校編)」→→→

URL → <https://www.youtube.com/watch?v=Tb7ioQRr53Q>

- ◆「令和の日本型教育の構築を目指して」→→→

URL → <https://www.youtube.com/watch?v=DLkaVCTOAUy>

学びの午前

自律の午後

朝の会	8:15~8:20
1校時	8:25~9:10
2校時	9:20~10:05
3校時	10:15~11:00
4校時	11:10~11:55
5校時	12:05~12:50
給食	12:50~13:30
昼休み	13:30~14:00
6校時	14:00~14:45
教科横断の時間	14:55~15:25
清掃 帰りの会	15:25~15:40
補習・部活 下校	15:40~18:00

●生活習慣の確立
午前5時間制は「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化の向上が確認されています。

●授業時数と授業コマ数の確保
午前中に5単位時間分の授業を行うため、授業時数の確保につながります。

●長時間学習の活用
主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を行います。思考力・判断力・表現力等の育成に効果的です。

●短時間学習の活用
「わからなかったこと」を「わかるようにする」ための時間・発展的な学習をするための時間として設定します。

集中力の高い午前中に行う5単位時間の授業



*昼休み⇒歯磨き・休憩(10~15分間のナップタイム
→「脳をリフレッシュする昼寝の時間」)

学習の質を高める「長時間学習」

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る「短時間学習」

生み出した放課後の時間

⇒「生徒と交流」「授業改善」等

最上位目標

「自ら考え、判断し、言動できる人」の育成

生徒

- ① 個別・協働学習の充実
授業で分からなかったところや苦手な学習を個別に教えてもらったり、学校生活等について仲間や先生と対話することもできます。

- ② 自由時間の拡大
学校行事等が多い中、生徒たちに自由な時間も確保することができます。

- ③ 生活リズムの確立
年間を通して18:00に下校時間を設定することで、生活リズムも整います。

教員

- 教材研究等の充実
・教員同士が話し合い、生徒にとって楽しい、分かる、参加する授業等の工夫もできます。

- ・ワークライフバランスの意識が高まり、プライベートも充実します。

- ・教職員における「働き方改革」の推進を図ることができます。